

阿波銀行「あわぎんグリーン定期預金」フレームワーク

1. サステナビリティへの取組み

阿波銀行は地域に根ざした金融機関として、伝統的営業方針である「永代取引」を実践してきました。「永代取引」とは、目先の短期的な利益を求めるのではなく、世代を超えた息の長い取引を継続し、お客さまの持続的な発展に寄与していくというものです。この考えは、消費者志向経営やサステナビリティ経営にも通じるものであり、引き続き、お客さまと地域社会のサステナビリティを高めていくことで、当行およびすべてのステークホルダーの持続的な成長につなげていきたいと考えています。

当行は、地域のサステナビリティを高めることを経営の根幹と位置づけ、2023年4月から開始している経営計画「Growing beyond 130th」の骨子のひとつとして「持続可能な地域社会への取組み」を掲げています。また、経営計画を確実に遂行していくため、あわぎんグループ全役職員がベクトルを合わせ、ステークホルダーの期待や要望に応えていくために存在意義（パーパス）「永代取引によるお客さま感動満足の創造と豊かな地域社会の実現」を2023年4月に制定しました。さらに、2025年6月には、当行および地域のサステナビリティを一体となって推進するため、新たに「地方創生推進部」と「サステナビリティ推進課」を新設し、その取組みをさらに強化しているところです。

当行は、環境問題の課題解決や環境保護に向けた基本方針として、2009年6月に「環境方針」を制定しました。当方針のもと「あわぎんECOプロジェクト」を展開し、河川や森林などの保護活動や、省エネ設備への変更や再生可能エネルギーの導入に努めています。また、災害の激甚化を防ぐため、地球温暖化や気候変動への対応は早急に取り組むべき重要課題であると認識し、ECOプロジェクトの「アクションプラン」では、CO2などの削減目標（2050年CO2排出実質ゼロ）を策定し、職場や家庭における省エネ活動やエシカル消費の啓蒙も行っています。2021年7月には気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）に賛同表明し、サステナビリティ開示の充実に努め、市場との対話、取引先企業へのエンゲージメント強化を図っています。

2019年4月には、SDGsの理念や趣旨に賛同し、金融業務および地域貢献活動等を通じてSDGsの達成に貢献していくため、「あわぎんSDGs取組方針」を制定しました。また、2021年11月には「あわぎんESG投融資方針」を設定し、金融を通じたESG経営の強化にも取り組んでいます。

＜あわぎんSDGs取組方針＞

阿波銀行では、SDGsの達成への取組みを通じて持続可能な経済・社会・環境の実現するため、「あわぎんSDGs取組方針」を制定しております。

阿波銀行は持続可能な開発目標「SDGs」に賛同し、その目標達成に向け、社会の一員として主体的に取り組んでまいります。

1. 地域経済発展と産業振興への取組み

当行の伝統的営業方針「永代取引」の実践による幅広い金融サービスの提供により、地域経済の発展と産業振興に貢献し、お客さまと地域の持続的な発展をめざします。

2. 魅力のある持続可能な地域社会の実現

さまざまな社会貢献活動や環境保護活動等の取組みを通じ、地域のすべての人々が安心して生活できる持続可能な社会の実現をめざします。

2. あわぎんグリーン定期預金の位置付け

当行では、お客さまの環境・社会課題解決、脱炭素社会の実現に資するファイナンスを「サステナブルファイナンス」と位置づけ、取組みを強化してまいりました。「あわぎんグリーン定期預金」（以降、「グリーン預金」という）は、当行のサステナビリティ活動への取組みにおいて、預金と融資をつなげる形で実践するものです。

＜あわぎんグリーン定期預金の概要＞

- (1) 通貨：円
- (2) 募集対象：法人
- (3) 最低預入額：1,000 万円
- (4) 預入期間：1 年
- (5) 適用利率：大口定期預金金利

3. 調達資金の使途

当行は、グリーン預金を通じて調達した資金を、以下の適格基準を満たすプロジェクト（適格プロジェクト）への新規および既存の融資案件に充当します。調達資金の全部または一部を既存の融資案件に充当する場合、適格プロジェクトの環境改善効果が継続しているかを確認し、遡って5年以内に実行された融資案件を対象とします。

| カテゴリ | 資金使途 |
|-----------|---|
| 再生可能エネルギー | 太陽光発電、風力発電、地熱発電、バイオマス発電（持続可能な原料または廃棄物由来のものに限る）、小規模水力発電、蓄電池（容量市場、卸電力事業、需給調整市場等の電力市場を活用して電力事業を行う、蓄電池事業に対する融資） |
| エネルギー効率 | 以下の評価を得た新たな建物の建設、購入または既存建物の修繕 ・ZEH：ZEH Oriented 以上 ・ZEH-M：ZEH-M Oriented 以上 ・ZEB：ZEB Oriented 以上 ・LCCM：一般財団法人住宅・建築SDGs 推進センター等第三者機関が発行したLCCM 住宅認定書を取得しているもの |

4. 適格プロジェクトの評価と選定プロセス

（1）環境面の目標

本グリーン預金の環境面の目標は気候変動の緩和です。

当行は、環境問題の課題解決や環境保護に向けた基本方針として、2009年6月に「環境方針」を制定し、当方針のもと「あわぎんECOプロジェクト」を展開しています。

気候変動対応における「指標と目標」としては、CO2などの削減目標（2050年CO2排出実質ゼロ）とESG投融資額（2027年度目標残高3,000億円）を掲げています。

（２） プロジェクト選定における適格基準の適用

適格プロジェクトおよび適格基準の設定、並びに「環境方針」「あわぎんSDGs取組方針」「あわぎんESG投融資方針」に掲げる取組方針との整合性の確認は、経営統括部にて行います。適格プロジェクトへの投融資案件は、審査部が融資審査を実施のうえ、経営統括部において適格性を確認し選定します。選定結果を踏まえた、適格プロジェクトの集計、残高管理は営業推進部が行います。

5. 調達資金の管理

本グリーン預金による調達資金の充当管理は営業推進部が行います。本グリーン預金による調達資金総額、使途への充当済資金、未充当資金は、電子ファイルにて管理します。全ての調達資金が充当されるまでの間は、未充当額と充当額の合計が調達資金全額と整合するように管理し、これらの確認は本グリーン預金から対象使途への資金充当があった都度実施します。全てのグリーン預金による調達資金が充当された後は、調達資金額が調達資金から使途へ充当された累計額と一致するよう、また、使途へ充当された累計額が預金資金額を上回るように管理することとします。未充当金額が発生した場合には、現金または現金同等物等で運用します。

6. レポーティング

（１） 充当状況のレポーティング

本グリーン預金の適格プロジェクトへの充当状況については、以下の項目につき、少なくとも1年に1回以上、当行のWEB サイトにて開示します。

- ・ グリーン預金残高
- ・ 充当したプロジェクトの内容と融資残高
- ・ 未充当金額

（２） インパクトレポーティング

グリーン預金の残高が存在する限り、以下の指標につき、少なくとも1年に1回以上、当行のWEBサイトにて開示します。

- ・CO2排出削減（見込）効果（t-CO2）
- ・建物における取得した認証と棟数

（３） その他レポーティング

大きな状況変化があった場合は、状況を確認したうえで当行のWEB サイトにて開示します。

以 上